

### 【千羽鶴の奉納について】

三日目の一番初めに平和記念公園へ行き、千羽鶴を奉納しました。そして、原爆の子の像を見学しました。そこにはたくさんの千羽鶴が奉納されていました。全国の学校や団体、広島市民の方々の奉納はもちろん、外国の方々の千羽鶴もたくさんありました。

原爆の子の像は、原爆により白血病で亡くなった佐々木禎子さんをモデルとした像で、禎子さんの同級生による募金運動によって作られ、1958年5月5日に完成しました。石碑の上に女の子が両手を広げ、平和の象徴である鶴を掲げています。像の下の石碑には、「これはぼくらの叫びです これは私達の祈りです 世界に平和を築くための」と刻まれていて、この像には「明るい希望」という意味があるそうです。

### 【千羽鶴の奉納した感想】

自分が千羽鶴を奉納した時には、ものすごい数の千羽鶴が奉納されていました。そこで自分が思ったことがあります。それは、この千羽鶴を作っている人、一人一人がそれぞれの平和への思いをもって、作っているということです。そう思うと、本当に多くの方が平和を願っていることが奉納してある千羽鶴からわかりました。

自分では、戦争は勝っても、負けても得する人はいません。だから本当に戦争がおきないことを願いながら、この千羽鶴を奉納しました。学校の代表としてよい体験でした。

### 【被爆講和学習について】

広島派遣の最後は、被爆講話学習です。今回私たちにお話ししてくださったのは、朴南珠さんです。朴さんは在日韓国人二世の方です。女学校1年生の12歳のとき、妹さんと弟さんを疎開先へ送る途中、爆心地から1.9キロメートルの路面電車の中で被爆をしたそうです。太平洋戦争が始まったときから、戦後までを詳しく話してくださいました。原爆が投下された8月6日から10日頃までの話には、原爆の被害を受けた方たちや広島の様子などが多くあり、原爆の悲惨さや恐ろしさを強く感じました。戦争や原爆の怖さ、平和の尊さを知る上でも、とても貴重な体験となりました。

### 【被爆講和学習を聞いた感想】

被爆講話学習会で実際に被爆した朴南珠さんの講話を聞きました。朴さんは爆心地から1.9キロメートル離れた場所で被爆したそうです。爆心地から1.9キロメートルしかはなれてないのに生きのこれたなんてとても運が良かったと言うかキセキだと思いました。原子爆弾が広島で爆発した直後、広島には、焼け野原が広がっていたそうです。たった一個の原子爆弾で広島市が焼け野原になってしまうなんて恐ろしいなと思いました。川には、たくさんの人々の死体や、動物の死体などが浮いていたそうです。その光景は、まるで地獄のように怖いと思いました。

二度と、日本で戦争がおこらないように講話で学んだことをむだにせずに周りの

人々に伝えていきたいと思いました。

私が被爆講話を聞いて一番印象に残ったのは、痛みも恐怖も通りこしてしまうほどの、何とも言えない気持ちだった、という話です。正直私には想像ができないのでよく分かりません。それほど今が平和であるという事なのだと思います。当時の人々は苦しみながら息絶え、生き残ることができた方も、生き残ってしまったと申し訳なく思い苦しき生きてきた、たくさんの死、悲しみ、恐怖をもたらした戦争に正義はない、そう語っていました。本当にその通りだと思いました。平和に慣れてしまっている今こそ、戦争とは平和とはなにかを考えなおし、伝えていく事が大切だと学びました。

#### 【被爆講和学習を通して学んだこと】

今回の講話で、私達は実際に経験した方からの貴重な話をいただくことができました。

きっと思い出すのも辛いだろうに、その当時のことを細かく話してくれたため、私達は、頭の中にその光景を浮かべて聞いていました。聞き終えた後は、頭の中が深い悲しみで一杯でした。

今回の講話では、教科書で見ることのできない、原爆投下後の不安や恐怖を学ぶというより「感じる」ことができました。

話の後半に「戦争に正義は無い」という言葉が出ましたが、これによって、暴力は何も生まないというごく身近なことを、改めて学びました。

以上